



栗田 英明 (政新クラブ)

市長にとって信頼関係構築が最も大事では



問／中川市長は、「副市長4人制」の提案見送りを市民や議会の理解を得られていないためとしたが、理解を得るためには何が必要か。

答／これまでの議会の議論や市民の声を踏まえ、理解いただくための手法も合わせて、検討・研究していきたい。

問／職員やシティプロモーションの相手先についても市長の考えが理解してもらえていないと考える。最も大事なものは、信頼関係の構築と考えるがいかがか。

答／職員とは常に議論し、現状や課題の共有化を図ってきている。今後も、国や県、関係団体の皆様にも直接お会いし、対話を重ねることで信頼関係を構築していく。

地域おこし協力隊員を住民組織に派遣しては

問／地域おこし協力隊や企業人材派遣制度等を活用していくことが必要ではないか。地域おこし協力隊を各地域自治区にあるまちづくり振興会等へ派遣することはできないか。

答／これまで22人の隊員を受け入れ、現在11人が市内各所で活動している。退任後も市内定住ができるような支援に力を入れている。また、大手旅行代理店からの人材派遣も得ており、今後も活用については検討していく。まちづくり振興会等への派遣についても検討する。



高山 ゆう子 (みらい)

閉館した公的施設解体を含めた今後はず



問／大手町の一角にある閉館した旧女性サポートセンター・旧高田地区公民館・旧大手福祉館は、立入禁止ロープが張られ、何年も放置されている。中心市街地の美観を損ねた状態であり、市民からも苦情や心配する声がある。解体を含む今後の予定を聞きたい。



旧女性サポートセンター

答／この土地は、様々な用途の活用が見込める優良な土地であり、解体を前提に総合的に再開発すべく検討中である。いつまでに解体するとは言えないが、施設はそれまでの間、駐車場も含め適切に維持管理を行う。

うみてらす名立の今後の改修計画は

問／うみてらす名立は、開業から22年が経過し、建物の経年劣化や客層の変化もある。名立の魅力をいかし、「海の駅」の要素も含めた「道の駅」にすべく、今後の改修計画について聞きたい。

答／同施設は、老朽化と社会環境の変化に伴う機能再編を考慮したリニューアルが必要な状況である。今後は、指定管理者や関係者と協議を重ね、将来計画の策定と、達成したい成果を見据えた施設の機能の見直しや、大規模改修を含め検討を進めていく。



うみてらす名立



丸山 章 (政新クラブ)

市長公約「最先端のエネルギー制度」を問う



問／市長は、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関し、UPZ自治体が事前了解権を有する安全協定の締結が必要との考えを示した。市長の強い意志を他自治体に先んじて示す考えはないか。

答／UPZ自治体の各首長は、実現に向けて取り組みを進めていく認識が共有されていないため、「事前了解権」を有する安全協定の締結を求めることは、現時点では難しい。

問／直江津港エリアを、天然ガスを中心としたエネルギー拠点にするところがあるが、既に直江津港はエネルギー・物流の拠点である。市長が考えるエネルギー拠点とはどのようなものか。港湾管理者である県との協議は始まったのか。

答／メタンハイドレート調査、アンモニア混焼の実証事業など、先進的な取り組みが加速しており、拠点性が高まる。脱炭素に向けた動きなどを踏まえ、国や県と連携して進める。

市長公約の政治責任等の認識は

問／市長公約が反故に等しい状況になっていることは、市民に対する背信行為になる。政治責任や市民への説明責任の重要性について、認識を聞きたい。

答／市民に約束した公約は、政治家にとって極めて重いものであり、公約が実現できなければ、市民の信頼を失うことになる認識している。